

ふるさと探訪

(12)

東)に前身の七堂伽藍(しちどうがらん)があり、その正八年(一五八〇)には福の観音堂に行基作の仏像が納められていたと記されている。

高津町の曹洞宗隠龍寺に長年人知れず安置されていた木製の仏像十五体が、府の文化財機関で鑑定を受けている。仏像は、奈良時代の僧行基

で汚れていて、足の部分に火に焼けた跡が残るものが一体ある。「これには同寺の歴史と何かかわりがある

領主だった大槻辰高が、崇徳二年(一一五七)直前の高津

洞宗派の寺社として再開(びやく)された。同寺が今の場所に移った時期は定かでない。

高津町・隠龍寺の仏像15体

同史談会の木下礼次氏編集、高津八幡

奈良時代の行基の作か

土で汚れた木製立像が現存

(ぎょうき)が手掛けたと伝わり、同町の中筋公民館資料委員たちは「文化的な価値ほどの程度と評価されるのだろうか」と関心を深めている。

十五体はすべて立像。小さい物で高さ約四十センチ、最も大きな仏像は高さ一メートル。いずれもかなり朽ちている。顔の表情や体に彫刻された模様などは分別できないが、一体は薬師如来像

の「観音寺文書」を基に書かれた文面の中に、永正四年(一五〇七)ごろの管

領細川政元の軍勢が丹後攻めに立った際、隠龍寺を宿

すでに同寺があったことになり、時代が異なる点について

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知ってもらえるだけでも幸いと話している。

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

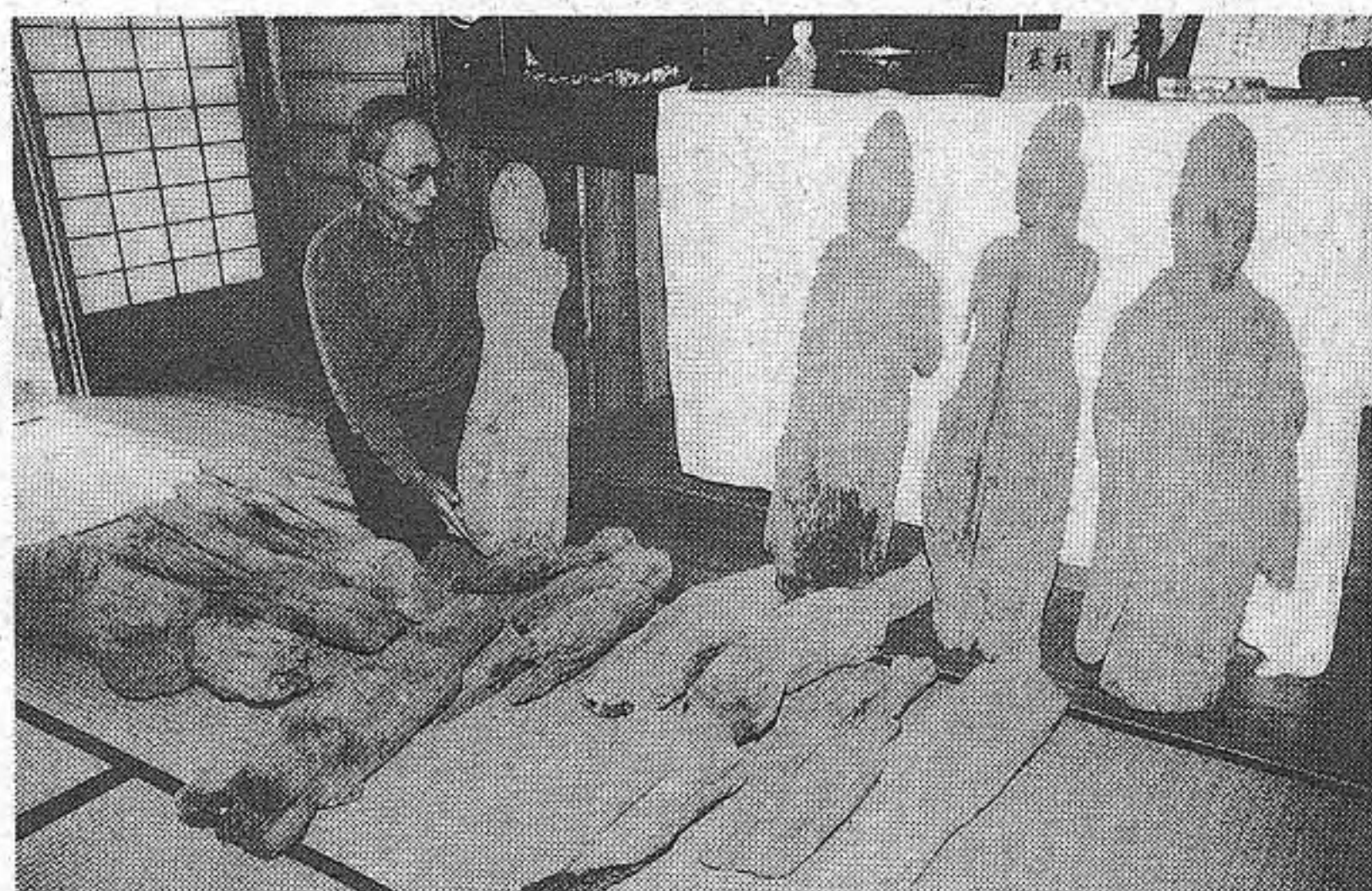
同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知



隠龍寺に長年人知れず安置されていた仏像を確認する大槻さん(高津町で)

いては「隠龍寺が過去に火災に会い、そのとき住民らが仏像を一時的に土中に埋めた後、今の隠龍寺に移した」と考える。

火災というのは、天正時代初期の明智光秀による丹波攻略と推測する。同寺が比叡山・延暦寺の流れをくむ天台宗寺であつたならそれもつなずける。

それなら、土中に埋めた仏像がいつ現在の隠龍寺に運ばれたかという興味はわくが、その時期は分からない。十五体が安置されている現在の観音堂は、代々の住職が聖なる場として開堂を許さなかったため、檀家の人たちも仏像のことを知らない人がほとんど。

同委員らは、仏像が鑑定を受けると、元の人たちに「こんな古い物があつたのか」と知ってもらえるだけでも幸いと話している。(高橋)

府の文化財機関で鑑定中